

神代之風



熊野三山
奥之宮

発行：世界遺産 玉置神社
出雲大社玉置教会
発行人：弓場 季彦
奈良県吉野郡十津川村玉置川一番地
TEL 0746-64-0500
FAX 0746-64-0429
http://www.tamaki.jinja.or.jp



可愛い巫女さん
デビュー

宮司インタビュー
2・3・4・5面

春の玉置山
出合いのアラベスク

年間参拝者

9万人突破!

ありがとうございます

初午祭

昨年末、お正月と、まれにみる天候に恵まれ、神社側スタッフがうろたえるほど、参拝される方々がたくさん来てくださいました。

さてさて、玉置の神々、いろいろと課題を与えてくださいますね。4年に一度のうるう年。2月29日、そして3月1日にドカンと寒さ訪問。山上への路は凍結で極めて危険。こんな状況下にあっても、三柱神社・初午祭(3月1日)に

人気の女性神職



初々しい
女子大生巫女さん

大阪大学4年生当時の女性神職

は約360名の方々が参拝してくださいました。ありがとうございます。ひとしおです。祭典中にはお日さまがやさしく、ニコニコ微笑(ほほえ)んでおられたようですね。玉置の神々の不思議な世界の演出かな。皆々様、永遠(とわ)にご縁をお願ひ申し上げます。率爾(そつじ)なことですが、2月29日朝、山上の駐車場に到着した時に、親代わりでもあった実兄が旅立ったとの連絡を受け、直ちに喪に服す



べく、手短かに引き継ぎをして引き返しました。スタッフの皆さん、役員、総代の皆さん、ボランティアの皆さん等がしっかりと祭典を完結してくれました。心から感謝しております。参拝者の皆様と交流できなかったこと、誠に申し訳なく、また残念でございます。3人の兄たちは、次々と去り、ご先祖の列に加えていただけたことでしょう。私はたった一人になりましたが・・・。いつもありがとうございます。

5月6日 白山社例祭
5月13日 玉石社例祭
5月14日 出雲大社玉置教会例祭
6月30日 夏越大祓

9万人を突破しました

大きな広報効果

◇今年3月末までの1年間の参拝者数はどれ程ですか。

―(弓場宮司以下略) 3月15日現在で申しますと、9万人を突破しました。ちなみに、前年度(26年度)の参拝者数は約4万7060人、私が宮司に就任した24年度は約2万6000人でした。こんなに多くの方々が参拝に来て下さって、玉置の神々も大変お喜びになっておられること

と思います。神社職員・関係者を代表して、心より感謝申し上げます。もちろん、慢心なきよう自戒は忘れません。

◇山上の小さな神社にこれほどの方々が…。奇跡的と言っても。

―はい、驚異的だと思っております。ありがとうございます。

◇神社ブームのさ中ということだけで説明できない沸騰ぶりですね。

―広報に力を入れました。その広報効果は大きいと考えています。皆さんから「中身がいい」との声がよく届きます。いろんな試みをやっていることが、紙面の中から感じられ、「次号が待ち遠しい」とおっしゃってくださります。マンネリにならないよう、もっともっと工夫したく思います。

◇ほとんどの記事は宮司が書いていますね？

―書けるだけ書いています。思ったまま、

宮司インタビュー (特別編集)

役に立つ知性を友に、未来に立ち向かうべし

スピーチデーにやらねば、舞台は回ってこない

インタビュー― 水野成之 (元読売新聞社会部記者)

感じたまま、熱気が冷めないうちにそのまま書きます。文章の工夫をしたりはしません。

◇それがいいのです。さて、様々な弓場チャレンジが注目されていますが。

縮み思考はダメです

―ここでは一つ一つ説明いたしません、とにかくいろんなことを仕掛けていかなないと、と。縮み思考ではいけない。絶えず、ときめきの炎を燃やしなが、スピーチ

―に進める。早く踏み出すことが大事だと思います。

いつも胸にあるのは「常に外へメッセージを発することが、神社の顔づくり、プレゼンスだ」ということです。熱い想い、願いは絶えず発信していく…。

「余力」が本当のパワー

◇その根底にある考え方は？

―物事は、いろんな角度から見れば、ムダな事はありません。その「余力」が本当

のパワーだと思ふのです。必要なことしか知らない、必要なことしかない、ではないけませんね。

とにかく、文化であるとか、もちろん教養を含みますが、それは巨大パワーであると考えていますので、そういうものに力を入れていきます。

チャンスは気を付けて見回せば、いくらでもある。しかし、そのチャンスにチャレンジしていけるのは、かなり限られるかもしれない。

さはさりながら、私が意識しているのは、スピーディーにやらないと、もう舞台は回ってこないと、いつもそんな気持ちで一步を踏み出しております。

戦場で一生を過ごした皇帝の言葉

◇「・・・山上の小さな都」づくりを標榜(ひょうぼう)しておられますが、頂上まであとの位のところに？」

—まだまだ頂上は全く見えません。やれることは全て試みるのが私の主義。力が備わってから「為(な)す」ということでは遅れをとります。マルクス・アウレリウスが自省録の中でこう述べています。「現在、役に立つ知性において、未来に立ち向かえ」と。戦場でほとんど一生を過ごした彼ならではの哲学ですね。私は、今、役に立つ自分の知性を友に、未来に立ち向かい、そして切り拓いて行くつもりです。

◇マルクス・アウレリウスは、ローマ皇帝で後期ストア派の哲学者でしたか。『外的な事に心をわずらわすことなく、与えられた運命を甘んじて受け忍ぶ』という皇帝の覚悟・・・宮司の運命論者的な生き方(勝手を解釈ですが)に通じるものがあるように感じます。

—私は彼の自省録が好きなんです。ロマンすら感じております。

◇読書といえは？
—「九転十起」の女性といわれる広岡浅子さんについて書かれた本を読みました。その中から、組織を活性化するヒントを得た言葉があります。

①組織はいつも生きて呼吸している②気迫の無いお人好しは厄介者③気迫はリーダーのなくてはならない要素④信念に従って、争うべきは断じて争う義務がある！
◇気迫は周囲を圧倒し、説得力を増幅するもの。大いに参考にしよう一踏ん張りして下さい。

可愛い巫女さん デビュー

地元中学一年生

◇難しい話がずっと頭痛がする質(たち)でして・・・ところで、可愛い巫女(みこ)さんがデビューしたとか？
—そうなんです。地元(ぢよん)の村立中学一年生の女の子です。岩崎責任役員のお孫さん、岩崎緒歌(ちか)さん(13歳)です。

岩崎緒歌さん
—笑顔が初々しいね
◇ほぉ。会ってみたいものです。
—時々、おじいちゃん(責任役員)と一緒に神社に来て、ボランティアとして手伝ってくれていました。緋袴(ひばかま)を



はいた巫女さん姿で授与所に座っていますと、誰もが思わず笑顔、心がホッとしますよね。学校での活動が土曜、日曜もありますので、なかなか神社に来る機会は少ないのですが・・・責任役員にお聞きしますと、ちかさん、とても(神社の仕事に)関心を持っていらっしゃいます。当神社の女性神職も最初は巫女として奉仕し、勉強を深

め、神職となりました。
◇親や祖父などが「行くかよ？」と子や孫を導けば、日本の伝統文化はこうしてつなげていくんですね。

出雲大社玉置教会 これが正統な由緒です

◇出雲大社玉置教会の由緒などを聞かせて下さい。どうして玉置神社に同教会があるのかとよく聞かれるでしょう？一部の村の人で「あんなの変だ」といった類いのことを言う方もいるとか、そんなへんな声も聞かえてきます・・・

—ご説明します。明治の廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)の時、十津川では、たくさんあったお寺を全て遺棄した。ふと気が付いたのは、今風に言うところ、葬式はどこのがやるのか、ということ。当時、基本的には神社ではやりませんでした。村人たちは相談し、神葬祭を執り行っていた出雲大社に村の代表が行き、了解を得て、明治19年に出雲大社玉置教会が発足いたしました。全村民が出雲大社教に入会する条件だったので、全村民が同教の会員となったのです。

◇正統な由緒を村民が忘れてはいけませんね。

—現在は、村内各地区の神社で神葬祭に取り組みされております。なお、玉置教会は縁結びの神でもあられますので、結婚式の申し込みがあれば、



祈る参拝者 「どうぞ幸せをー」 「良いご縁を・・・」

お受けしている—というのが一つ。二つ目は、かつてお預かりした御霊をお守りする—これが玉置教会の役目です。

ちなみに、ご祭神は、大国主命ですね。出雲大社には各地に教会があります。玉置教会が所属する出雲大社第五教区庁の新年総会に出席し、持参した広報紙「神代之風」をお配りした方々からは強い関心を寄せていただき、大変ありがたく思いました(7面に関連記事)。

世界遺産・玉置神社 ありがたく—

◇世界遺産効果は？

—大峯奥駈道は、2004年7月7日に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。玉置神社は大峯奥駈道の一部に含まれておりますので、世界遺産となっているわけです。奥駈道にはカッコ書きで、「玉置神社を含む」と明記されています。

奥駈道の一部に含む、という意味では、出雲大社玉置教会も世界遺産と称せるはず。しかし、カッコ書きに明記されていないので・・・。ただ、「玉置神社」という概念の中で境内の同教会も世界遺産に入っています、という言い方もできるか・・・と。

◇微妙な解釈論ですね。頭痛がします。

—世界遺産効果の話ですが、登録は大変ありがたく思っております。はつきり申しておきたいのは、世界遺産だからということ、参拝者の急増につながったのか、との意味でお訊ねされたのなら、そうとは限

りません。世界遺産であろうとなかろうと、玉置神社に惹かれて参拝される方々が多いと受け止めています。根っこにあるのは、当神社に対する強烈な想いだと感じております。

「お幸せになってください」

◇「不安」多き、「確か」なものを喪失した時代、「弱い」人に本当の手を差し伸べてくれない冷たい風吹く世相。人は誰でも一人では生きて行けません。

—私と同じ気持ちです。「どうぞ幸せになっていただきたい」、神社で手を合わせておられる皆さまに、いつも心の中で祈っています。

—私も同じ気持ちです。「どうぞ幸せになっていただきたい」、神社で手を合わせておられる皆さまに、いつも心の中で祈っています。

「天から見れば」 優しさ染みこむドキュメント

◇今後の仕掛けについて、企画案の一部でも教えてくれませんか。

—神社職員を対象にホームシアターを開催(8面に関連記事)しましたが、今後、参拝者の方々にも関わっていただけたい。将来的には山上の星空映画会のようなものをやってみたい。映画などを皆さんと一緒に楽しめたら良いですね。

◇「天から見れば」という映画はどんな？

—子どもの頃、父が経営する製材所に遊びに行つて、機械に巻き込まれ、両腕を失った主人公が、口、足で絵を描いたりして、逞しく生きていくドキュメンタリーです。絵の師匠はやはり両腕を失つて尼さんになり、絵を極めた女性。「絵を教えて欲しい」という少年。「あなたが一人で付き添い無く通ってくるなら教えましょう」という尼さん。少年は大阪・堺から一人で京都まで通い続けま



村尾浩史・竹中信子さん
「万葉音楽」演奏奉納

感謝



薩摩琵琶奏者・関川鶴祐さんの
心揺さぶる琵琶奉納演奏

初午祭Sketch (3景)



優雅な神楽舞

員も涙を流すばかり。優しさが染みこみましました。ぜひ、皆さんも、ぜひ。

初午祭前日 93歳で旅立った兄

◇お亡くなりになったお兄さんのお話を。

―私事ですが・・・この兄は4人兄弟の長兄です。私は末っ子。19歳離れていましたので、親代わりのようでした。私は成績も良くなく、中学・高校の時は家庭教師もどきに教えてくれました。また、兄のお陰で大学時代、ゴルフをさせてもらうなど物心両面で世話ばかりかけて・・・。

兄は昨年11月入院し、「年は越せないだろう」と先生に言われていましたが、2月29日まで頑張りました。93歳でした。

…ゆえに問うなかれ
誰が為に鐘は鳴ると
そは汝(な)が為に鳴るなれば

(ジョンタン)

◇どうぞ続けて下さい。

―十津川を未明に出発して(神戸まで)見舞うこと9回。兄はものは言えませんが、必ず私の手を握り、軽くうなずいていました。何遍も、行くたびに、何遍も手を握りました。両親の面倒をよく見るなど苦労を掛けた兄嫁はじめ娘や孫のことなど「あとを頼むぞ」と言っていたのか、と。「葬儀の斎主をやって欲しい」と書き置きをしてありましたが、兄弟であり、それは控えましたが・・・。とても心残りでした。

◇人気の女性神職・弓場麻妃(あさひ)

独り言

宮司の兄さんには一度もお会いしたことはない。ただインタビューなどのあと、宮司の話から如何にこの長兄を慕っていたか、よくわかった。

兄さんは京大医学部卒。神戸で開業医をされていた。宮司はもともと文学少年だったらしく、高校時代、三島由紀夫と太宰治にのめり込んだ。ほとんど勉強をせず、学校にも行かず、長兄が学校に何度も呼び出され、代わりに謝った。

神戸に見舞いに行くたびに、長兄は奥さんだけに通じる筆談で「玉置神社にお参りしたい」と。弟の宮司ぶりを我が目で見たかったのだろう。

亡くなる日未明、十津川の宮司宅の外の水場に明かりが灯っていた。宮司が奥さんに「どうして外の電気がついている?」と。「いいえ誰もつけていませんよ」。

「ここまでがんばったけど、あかんかったよ。もうすぐ遠く旅立つことを知らせに訪ねてきたのだろう。孤独と武士道を鉛の如く詰め込んだ宮司。自らの運命をひたむきに生きているんやなあ、と感じ、あえて言うなら、いささか胸が痛むのだ。

宮司さん、健康に氣い付けるんやで。鎮魂込めてー。

(水野)

さんはお元気ですか?

―元氣です。初午祭奉仕について村の直属上司の課長さんは気持ちよく「どうぞ」と言ってくれたそうです。いろいろ別のご意見をお持ちの上司もあるようですが、当人は明るく初午祭でお務めしていたと聞きます。

地元で建設業をしながらの若い男性神職は勉強熱心、努力家だし、県外から来てくれた権禰宜も陽性で、知性を内に秘めた人物。余談ですが、権禰宜は剣道4段、弓道2段、女性神職は弓道3段です。これらもスタッフ皆さんで一体となって玉置山をパワーアップしますので、一層の応援をお願いします。

玉置山の春。温かい風が吹いています。ありがとうございます。

終わり

玉置は春です お待ちしていますよ

21世紀の森・紀伊半島森林植物公園

石楠花まつり 百花繚乱

4月下旬～5月下旬

詳しい開花予想やイベント内容のお問い合わせは下記へ

十津川村観光協会
奈良県吉野郡十津川村小原315-1
TEL 0746-63-0200
FAX 0746-63-0202
E-mail info@totsukawa.info

今回も素晴らしかったね 奈良フィル第38回定期演奏会

昨年、風のように去った全良雄さん。ほんまにあわてん坊だ。奈良フィル率いて、もつともつと高みへ行つてほしかった。



奈良フィルロビーコンサート

3月6日、あなたの後を引き継いだご夫人のご挨拶。過ぎ越し日々の想いが押し寄せると、如何にせん。新たな一歩の幕開け。一瞬、あなたが舞台の袖で安心した風情で立っていたような気がしたよ。たつぷり奈良フィルサウンド聴かせていただいた。皆さん泣いていたよ。私もね……。嬉しい時も涙が出るんだ。全良雄さん、当分こちらで奈良フィル楽しむよ。それから貴兄の演奏拝聴するのはしばしのお預け。いずれ、駆けつけるからね。



全さんの奥さんと一緒に

2月11日未明にわが家の門に日の丸を掲出、神社に向かう。日の丸掲出は当主の役割。過ぎし日、祝日には老齢の父が覚束ない足取りで門に向き、日の丸を掲げていたのを思い出す……。

2月11日未明にわが家の門に日の丸を掲出、神社に向かう。日の丸掲出は当主の役割。過ぎし日、祝日には老齢の父が覚束ない足取りで門に向き、日の丸を掲げていたのを思い出す……。

輝く太陽に包まれ紀元祭

「参拝に来ましたが、紀元祭にも参列できてとてもラッキーでした。」と、喜び一杯に語りかけてこられる方もいました。熱心なボランティアご家族も遠方より駆けつけてくれました。心地よい風が、あちらこちらから吹いてきていましたね。

雪の古神札

御焚き上げ祭

正月中に新しい御札をいただきに玉置山に來られる参拝者の方々は、旧年中お守りいただいた古い御札等をお持ち下さいます。これらの御札・お守りを集め、1月28日午前10時より「古神札御焚き上げ祭」を斎行。真っ白な雪化粧の境内で、古い御札・お守りを焚く火が赤々と立ち上がりました。



龍笛 演奏

衣紋 着装

ご披露に向け

職員頑張っています

かねてより龍笛(りゅうてき)及び衣紋(えもん)については青山参与が職員や助勤者等に指導されていきました。だが、まだまだ未熟。各人が祭典において演奏できるように、また、自力で着装できるように、そう遠くない時期にご披露もできるよう、目標をしっかりと見定めて、1月からリセットスタートしました。なお、既に取り組み中の参籠朝拝体験に龍笛体験の時間も取り入れ、参加者にも龍笛に親しんでいただければ、と企画しております。

出雲大社第五教区庁

新年総会

実り豊かなひととき

京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県、岐阜県、福井県の各府県内の教会・講社の恒例の新年総会が1月29日、開催されました。池田分院（大阪府池田市）で正式参拝。宝塚ホテルに場所を移して総会、懇親会。

総会では、教務本庁沖津世育先生のご講話、来年度のスケジュール協議等がありました。

懇親会では参加者の皆さんが和やかに交流。それぞれ時間一杯、実り豊かなひとときを過ごさせていただきました。

なお、持参した玉置神社広報紙17号等も求められた方々には配布。ホームページともどもご存知の方々もおられ、所感等をお聞かせくださいました。

ありがとうございます。お礼申し上げます。



総会



大日堂社転換祭

大日堂社転換祭が2月3日午前10時より執り行われました。きりつとした神気に身体も心も引き締まる。節分祭の節目の佳き日、胎藏界の大日如来尊像から金剛界の大日如来尊像に転換。新たな年の始まりを感じ、また、これからの1年をお守りいただくことを願って、お祭りを終えました。

この日一日は、参拝者の方々も尊像を直に拝めるとあって、心を込め、お祈りされていました。

節分祭

玉置神社では2年目となる節分祭を2月3日午後1時より斎行しました。

まだまだ浸透していない上、昼間でも氷点下の山上。こんな中、参拝してくださいました皆さん、本当にありがとうございます。授与所で開運福豆を授かっておられた方々の笑顔が心に残りました。

節分祭は神気漂う中で無事に。「鬼は外オー、福は内イ」と福豆撒き。遠く福井県や愛知県から参拝の方々も大変お喜びになられていました。

神社では節分の日の節目に邪気を払い、清めの祭事としてお祭りを続けて参ります。



「厳しい寒さの中、参拝ありがとうございます」

開運招福

どうぞお授かりください

心も真っ白
雪の参進



初の祈年祭

風が舞う、雪が舞う、白銀の世界

まだ明けやらぬ早朝、雪はなし。凍結を懸念しながらも、標高1000メートルの地に向かう。

山道が地肌を見せ、穏やかであつたのは、わずかな時間。やがて風と雪が舞いだした。風は巨木の間で唸りをあげている。雪は降るのではなく、勢いよく舞い上がってくる。

神社はみるみる白銀の世界。

祈年祭のために純白の舞台を用意してくださったのだから。

足跡ひとつない境内を参進し、本殿にて第1回、初の正式祈年祭を斎行。

冷気は厳しく、容赦なく取り囲む。されど喜び一杯でご奉仕。

社務所へ戻り、しばしの後、太陽が昇り、やわらかく燃えだした。あつという間に白銀の世界はどこかへ消え去りました。不思議な・・・夢の中にいたのでしょうか。
2月17日のことです。

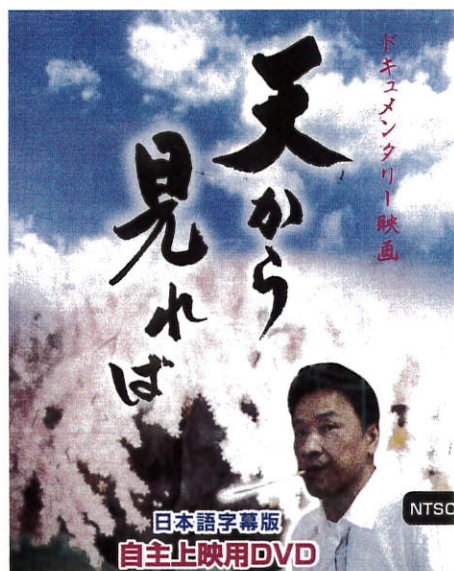


祈り ボランティアの皆さん

一緒に映画を

心に栄養

ホームシアター開催



「安らぎとほのかに文化の香りがする山上の小さな都」づくりへの試みのひとつとして、映画の上映を先ず神社職員を対象にスタートした。

映画は専門配給窓口から借用した。職員はそれぞれの休憩時間等を利用して鑑賞し、感想をミーティング等に披露した。

しっかりと鑑賞したことが伝わってきた。

心に栄養が、優しさなどが染みこむと共に、考える力、視野の拡大にも効果があつたようだ。

参拝者の皆さんの中で、関心のある方々にも、このような機会を提供できれば、と今検討中です。

なお、配給窓口からお借りしたのは、「天から見れば」という映画でした。多くの方々に見ていただければと思いました。貴重な映像、誠にありがとうございました。



先ずは神社職員と...